

校長室より

第93号

「天空高き」



平成29年3月14日

新たなスタートー平成28年度卒業生に送るー

252名の卒業生が本校を巣立ちました。

卒業生は緊張感をもって、在校生は心のこもった姿勢、態度で、厳粛な素晴らしい卒業式でした。

卒業生の皆さんが踏み出す社会は、先行き不透明で予測がつかない時代だといわれています。しかし、このようなフレーズは以前から耳にしてきました。

いつの時代においても誰もが未来を予測することも確定することも不可能です。皆さんにとって大事なことは、今を前向きに素直に全力で生きることです。



ところで、皆さんは幼稚園や保育園で先生から繰り返し教わったことの一つに、「約束を守ること。嘘をつかないこと。誰とでも仲良くすること。仲間外れをつくらないこと。悪いことをしたら謝ること。困っている人がいたら助けること。人の悪口を言わないこと。」があると思います。

高校生になっても同じことを言い方や話し方こそ違え、やはり同じことを繰り返し指導されてきたことだと思います。



しかし、誰もが幼少期に指導されてきたにもかかわらず、成長してそれらの実行が難しくなるのはなぜでしょうか。誰もがより良い社会にしたいのならば、私たち一人ひとりが繰り返し指導されてきたことを謙虚に毎日実行すべきです。

世界の至る所で紛争やテロが勃発しています。また、エネルギー、環境破壊や貧困など、地球的規模の大きな問題から、日常で起こっている悲しい出来事や事件、私たち自身の些細な悩みや苦しみも、幼少時代に習ったことを実行することでお互いの信頼関係が構築され、解決の糸口を見つけることができるのではないのでしょうか。

一見、遠回りなことのようには思えるかもしれませんが、素直に実行することで、いつか必ず相手も信頼を寄せてくれるようになり、様々な問題が少しでも片付いてい

くのではないかと私は信じています。

252名の卒業生の皆さん、今日がゴールでそして新たなスタートです。皆さん一人ひとりが力強く旅立ち、その前途に幸多からんことをお祈りします。

人間関係の土台となるもの―何気ない言葉が人間を甦(よみがえ)らせる―

昨年の12月末に、同僚であり尊敬していた先生が亡くなりました。今でも折に触れ、先生の言葉や当時の様子などが脳裏に走馬灯のように浮かんできます。

今、先生が亡くなられ、ようやく先生のさりげない思いやりや優しさがどれだけ自分の人生を支えてくれていたか、ということがひしひしと分かってきました。



国際コミュニケーション学会名誉会長の鈴木秀子先生が、『致知』3月号に連載されている「人生を照らす言葉」の中に、こんなくだりがあります。

「・・・人間が素晴らしい関係を築く上で大切なことは、決して情熱的な愛情などでなく、日々の生活における相手へのさりげない思いやりであり、それを受け入れる素直さではないかということです。

・・・大切な人が生きているうち、ともに触れ合えるうちに日常の小さな出来事を決して疎かにせず、1ミリ1ミリ愛や信頼を積み重ねていく努力がいかに大切であるかが分かります。幸せを感じ、人生を充実させる秘訣がそこにこそあるのです。

・・・よき人生は小さいことの積み重ねです。身近な人とさりげなく心を通わし、相手に敬意を持って接するという小さな行いの中に、大きな喜びを感じ取れる人間になりたいものです」

私たちは切符をもって生まれました。いつまで乗れるのかわからない人生の片道切符を。この片道切符は行き先が書いてありません。書いてないということは自分で決めるしかありません。そして、途中下車も後戻りも出来ません。

皆さんが日々の生活の中に幸せを感じ、人生を充実させていくためには、いつも思いやりの心を持って仲間とともに今を前向きに素直に全力で生きることが大事です。

人生は夢をもって それを全情熱で追い 決してごまかしたり へこたれたりせず
あくまで全精力をもって やり抜くことである 第16代京都大学総長 平澤興

総学の研究発表会ー普通科 1 年「総合的な学習の時間」ー

2 月 23 日の午後には普通科 1 年生の発表会が開催されました。2 学期から総学等の時間を利用して、各グループが各々テーマを設定して調べ学習の総括です。

今回で 4 回目になりますが、各グループ、発表の仕方や態度、そして聴く姿勢も年々向上してきました。

私たちのコミュニケーションの手段は、言葉で伝えるか行動で伝えるか、この 2 つしかありません。今回の経験を基に、学校では授業、ホームルーム活動、学校行事や部活動などを通して、また家庭や社会生活を通して様々な体験を積み重ね、そこからいろいろなことを学んでもらいたいと思います。



異文化理解とはー第 5 回中六合同発表会からー

気が付けば今回で第 5 回を迎えました。

中 1～S2 まで総合的な学習の時間「楽学」での成果を、各学年での予選を勝ち抜いてきた 10 組の発表者によるプレゼンがありました。普通科 1 年生も行っていますが、普通科ではグループごとにテーマを決めて、2 月末に発表を行います。

18 日（土）の午前中に行いましたが、早朝にも関わらず、多くの保護者も参観されました。

付属中の校長と内容・発表力・面白さ（創造性・独創性等）の 3 点で評価しましたが、今回は、中 3ー2 浦野・福島君の「異文化理解の本当の意味とは？」が楽学賞に輝きました。

この発表を聴きながら、これからさらにグローバル化が進行すると思いますが、異文化理解とは、まず相手の国の文化を知ることからスタートし、お互いに文化の違いを理解し、理解したことを実際に行動に移せることが、大事なのではないかと思います。



JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2016

中国国際センター所長賞

「紛争をなくすためには」 六年制普通科 1 年 中島 優花

私にはなぜ紛争が起こるのかわかりません。紛争が起こる原因は、国際関係・宗教・経済事情・文化・民族等さまざまなものがあげられると思いますが、私にはただ意地を張っているとは思えません。

私は母が日本人ではないという事もあり、これまでに日本国内だけにとどまらず、アフリカ・ヨーロッパ等様々な人種、国籍を持つ人に会いました。その中にはお金に

不自由の無い人、日々の生活に精いっぱいゆとりがない人など、様々な人がいました。それでも皆現実をきちんと受け止め、決して良いと言える生活ではなくても楽しそうに生活していました。だからたとえどんな人でも楽しく生きられると思います。それを思い知らされたのは、私が小学校四年生の時です。



小学校四年生といえば2011年です。東日本大震災があった年です。その頃私は、メキシコの日本メキシコ学院の日本語コースに通っていました。そこにはメキシコ人もいましたが、ほとんどが親の海外出張によって来ている人でした。私がこの学校に通ったのは、たったの三カ月でした。ですがこの三カ月で私は多くのことを学びました。小学校四年生にして、すでに三か国語を習得している子からは語学の必要性、これまで多くの国で生活してきた子からは、相手のことをきちんと受け止め、困っているときは助け、分からない時はもう一度聞き、分かるようにするなど、普段の日本の生活では学べないようなことも多く学びました。ですが、私が学んだことはこれだけではありません。さっきも言ったようにこの頃東日本大震災がありました。私はどこで聞いたのかは覚えていませんが日本で地震があり、日本が津波にのみ込まれたと聞きました。私はそれを聞いた時、日本の同級生は無事なのか心配でした。だから私は家の近くにあるインターネットカフェのようなお店に行き、日本の担任の先生にメールを打ちました。しばらくして先生から返信が来ました。それを読んで私はホッとしました。そこには山口では津波も地震もなかったと書かれていました。そして津波があったのは東北地方で、被害が最も大きかったとも知りました。日本に住んでいる人ならば、誰もが知っていることだと思います。しかし、日本から遠く離れた地では、日本全体が大地震に襲われ、津波が起こったかのようにテレビなどのニュースでは放送されていました。

この体験から私は、自分が本当だと思っていることは、全ての場所において本当であるとは限らない、という事を知りました。また、周囲の情報にとらわれることなく、自分で知ろうとすることも必要だという事を知りました。これは紛争をなくすためにも必要なことだと思います。一人一人が小さな枠組みにとらわれず、自分の目で知りたいたいと思えるようになれば紛争をなくすことは出来ると思います。

日本国内だけでも毎日のように、どこかでケンカや反対運動が起こっています。それは学校でも家でも同じことだと思います。期間は長いものも短いものもありますが、いずれにしてもいつか終わっています。なぜ終わるのか、それはどちらか一方、もしくは両方が相手の意見を尊重し、自分をコントロールしているからだだと思います。このように同じ枠組みの中で共生している人間同士なので、一方的に意見をぶつける事なく生活することが可能になれば、地球という世界はより良い方向に進んでいくと思います。